

専門職大学院におけるカリキュラム構成について

2005/05/16

奈良教育大学 上野ひろ美

1. 理論と実践の架橋

理論と実践を担う役割分担をするのではなく、同じ人間が実践と理論を架橋する発想に立つ。このことは、院生の学びの質を意味するだけでなく、大学教員と実務家教員もまた、それぞれが理論と実践を架橋する教育研究を行うことを意味する。

2. カリキュラム構成

(1) 「共通科目」の2つの意味

- ・ 導入教育として共通に受講する基本科目 (例)「研究科共通科目」(奈良教育大学)
- ・ 専攻にかかわらず、選択受講する科目群

(2) カリキュラム構成の2つの型

A: 従来の枠組み型(科目群の枠組を明示する構成)

教職専門

(例) 一般教授学; 授業の構造把握

学校の役割
 授業組織論
 学級経営論
 授業分析方法
 教育実践史
 学習集団論
 カリキュラム構成論
 コミュニケーション論

(例) 教育心理学; 具体的事例に基づく発達心理、学習心理、

具体的事例に基づく生徒評価
 発達促進
 学校における教育相談のあり方
 学校の社会学と政治学
 学校や学級における階層と環境の問題
 グループ・ダイナミクス、ソシオグラムの学習
 授業における指導の様式
 権威と規律等の問題
 教育における評価のあり方
 ピュアサポート法
 いじめ、不登校問題

(例) 教材開発等、教科専門からのアプローチ (教科専門、教科教育)

教科書比較
現行学習指導要領の分析
各教科の認識発展史
個々の教材開発
教材解釈力

(例) 重要な領域内容

軽度発達障害に関する知識と実践
性教育
情報教育
危機管理
教育法規

B : 教育現実から設定したテーマに迫るプログラム型

- ・ 実践から学問的要素を抽出し、系統化・抽象化する発想
(例) 学力定着のための教材開発
- ・ 研究課題を解決するために必要な科目群を選択する

3. 教育研究方法としてのフィールド学習の重視

(1) 事例研究、現地調査等 (双方向討論)

事例検討で勝負ができるか。

これを専ら「実務家教員」に任せるのは専門職大学院の自殺行為

(2) 授業科目数を少なく設定し、1科目あたりの単位数を多くする発想に立つ

(準備、フィールド活動、事後分析、レポート作成など)

(3) 必要な講義を選択して組み合わせる

授業ないし活動内容例

個々の教科や学校段階における授業構成の方法を学ぶ

共同で授業計画を作成

授業構想としての指導案作成

授業参観後の授業分析

授業分析力

実践記録の読み解き

地域連携事例の学習

(4) 指導教員と実務者教員 (& 教育支援者) が協働でおこなう分析検討、議論の場の確実な確保

(5) 修士論文に替わる課題研究のあり方

4．特別教育研究（教育実習）

5．教養ある専門人養成

哲学（例；臨床知）、倫理学、歴史、人権教育論など

6．獲得すべき資質能力の明確化

（１）学部と現行大学院、専門職大学院の違いは如何
スパイラル的上昇（原則に沿った学びの質）

（２）現職教育の重視

（３）幅広い学士課程の修了者、社会人等の多様な学生の受け入れ

（４）教職課程未履修者の扱い

（５）カリキュラムフレームワークの作成

7．教職としての専門性

（１）専門職学位課程

幅広い分野の学士課程の修了者、社会人等を対象として、大学院段階から、特定の高度専門職業人の養成に特化し、当該分野の人材養成に必要とされる高度で専門的な知識・能力を高い学問的水準において培う。

（２）教員養成における専門職大学院の活用

養成すべき人材像

特定分野に関する、より高度の資質能力

個別学問の専門性を過度に重視するのではない、教職としての専門性

教員養成システム全体の充実、強化

（３）獲得すべき専門性と方法の相違

8．実務家教員と附属学校・協力校が果たす役割